

天気予報と日常生活

渡辺博栄氏 新制二十五期



昭和四十八年に卒業しました、新制二十五期の渡辺です。今日はみな様の前で、特に大先輩を前にして、高い所からお話をさせて頂くという事で、少しおこがましく、テレビ以上に緊張しております。少しでも天気予報が身近になるような話ができればいいな、と思っております。二十分ぐらいお話の後質問などがあれば、お答えしたいと思っております。

私は、四十八年に気象協会の秋田支部に採用されました、三年間、現在の秋田新空港の気象調査にあたりました。みなさんも秋田にお帰りの時お感じになると思いますが、あの辺は非常に強い風が吹きます。あそこで、一月常駐しては二カ月間里に降りるといふ生活を、三年間続けました。現在の空港の気象の基礎データを作

つたわけでございます。

その後、仙台勤務を経て、平成三年の十月に東京勤務となりました。仙台でもラジオ、テレビを約十年担当しましたが、NHKの全国ネットワークの気象番組を担当するようになったのは、昨年(平成四年)の四月からです。

去年の四月から今年の三月までは、金、土、日曜日と、週の後半を担当したのですが、今年の四月からは、ご存知のように、折坂さんという若い美人女性が月曜日から金曜日を担当することになりました。一日減らされてしまいました。やはり女性の時代でしょうか、折坂さんには大変ファンレターも多く、このままでいきますと、来年あたりは私など降ろされてしまうのではないかと、心配しております。

紳士よりは若くて いい加減な奴がいい

私になぜ天気予報を担当することになったかといいますが、その方面に詳しく、この通りマスコもいからというではありません。

前年まで日曜日を担当されたのが、倉嶋さんという方でした。倉嶋さんは、ご存知の方も多いと思いますが、弁も立ち筆も立つ、いわゆる名物ウエザーマンです。倉嶋さんが気象庁を退官しまして、番組を降りることになる。ところが倉嶋さんの後任となりますと、なかなか適任者がいないわけです。それならいっそ思い切つて、若くて見るからにいい加減な奴がよからうということ、私にお鉢が回ってきたということです。ですから、日曜日など、パジャマスタイルで、気軽に天気予報をのぞく視聴者を想定しまして、倉嶋さんの紳士然とした服装とは違う、ラフなスタイルで出るようにという要請もあつたのです。

さて、私は根が真面目ですから、その要請通

りラフな格好でフラリと画面に現れました。ところが、さすがNHKの視聴者といいたましようか、「あのお化けのような格好で出てくるのは何者か」と、全国から苦情が殺到したのです。そこで、スーツにネクタイという、今のようなスタイルに落ち着いたようなわけです。

さて、今年の夏は大変な異常気象でした。気象庁観測以来始めて梅雨明けが確定できない異常さでした。あまり古い資料との比較はできないのですが、天明の大飢饉を招いた冷夏に匹敵する冷夏であろうといわれております。

統計によると、夏、二十八度を越えるあたりから冷房が使われます。三十度以上一度上がるごとに、東京電力だけでも、一日百万キロワットぐらい需要が伸びるということで、天気自体がビジネスに深く関係しております。気温一度で何億、何十億の収支の差が生まれるのです。したがって、気象協会も東京電力を始め、いろいろな企業に予測を提供しております。身近なところでは、西武球場、神宮球場などでも、われわれの予想次第で、監督の作戦も違ってくるようです。球場で販売される食事の準備・購入量も違ってくるのです。

こういう仕事ですが、天気予報はあたって当たり前、はずれた場合は抗議の雨あられ、これにはさして逃れる傘もありません。先日の中秋名月の夜も、東京地区では「雨」と予報しましたが、これがはずれ。とたんに気象庁・NHKに抗議の嵐。「晴れと予報したのに、雨でせつかくのお月様と対面がかなわない」というのではないのです。弘法も筆の誤りです。見逃してくれてもよさそうに思うのですが、そうはいかないお固い人もいます。中には「もうNHKには受信料を払わない」と八つ当たりされる方もいらつしやる。私はなるべく電話には出ないようにはしておりますが、たまたま出た電話で、

延々2時間の抗議を拜聴。その間、サンドバツグさながらに、叩かれっぱなしだったこともありました。

白然心を白然心のままに 受け止めることが われわれの仕事

最近エルニーニョというカタカナ言葉を見聞きいたします。これが冷夏の原因の一つ、というよりは現在世界各地で活発な火山活動が影響してエルニーニョを引き起こし、それが冷夏を生んでいるという見方が発表されました。しかし、エルニーニョを引き起こす原因はほかにもあると、ただ今、気象庁では調査研究を続けております。

いづれにいたしましても、私たちは自然の力に対しては受け身の存在でしかありません。例えば雷一つを考えましても、そのエネルギーは膨大です。台風などその方向や位置を変えようとするば、おそらく水爆百個ぐらいのエネルギーが必要であろうといわれております。気象は人間の生活に直接関わる重大な事象ですが、自然の生み出す現象に逆らって、自然現象そのものを人間に都合よく変えるということはほとんど考えられません。したがって、「今年の長雨はどうなっているんだ。気象庁は何をやっているのだ」と苦情を頂きましても、こればかりはどうしようもないわけです。

結局のところ、自然にはかなわないというのが本当でしょう。したがって、気象の予測や研究は、自然の猛威に対して、どれだけ被害を少なくするかということが、一番の目的だといつてよいと思います。

当初、日本の天気予報は、大切な人命を守るという見地から、警報だけだったようです。近年は災害予防の対策も進歩し、伊勢湾台風や洞

爺丸遭難のような多大な人命損失の悲劇は、この十四年間ぐらにはありません。しかし、先頃のリンゴ園全滅、今年予想される大凶作など、まだまだ財産までは守ることができないというのが実状です。

天気予報はお医者さんと似ております。お医者さんの問診や顔色診察などと同じように、天気予報も観測によって、まず空の状況、雲の流れなどのデータを収集いたします。その後、血圧や血糖値、尿蛋白などを測定するように、気圧や気温などもろもろのデータをコンピュータで分析して、天気予報として発表するという順序になります。

観測は、大きく分けて一日一回。日本時間の朝九時と夜九時。これはグリニッジ天文台が0時の時、世界中が同じ条件で同じことを観測しようということ、世界約七千の天文台が一斉に観測活動をします。その素データを東京に集めて、加工したものをまた世界に流すというようなことを行っております。今、世界各地で地域紛争があります。そのような時にあって、一番国際協力がスムーズに行われているのは、気象ではないかといわれております。国境を越え人種を越えて、同じ時間に人間の心臓の高さから頭の高さぐらゐの気温を測ります。高層は二万三万メートルを気象衛星などを使って観測します。

アメダスは日本独自のものです、およそ千三百カ所ぐらゐあります。強い雨の場合は、これでもかなり正確に予測できるのですが、ほんの少しの雨、あるいはごく限られた地域の短時間の天候の急変などまでは、まだまだ正確というところには至っていないようです。

気象衛星の「ひまわり」からの写真ですが、あれは大体赤道上に五つの静止気象衛星があつて、そのうちの二つを日本が分担しているの

です。これは冬型の雲の写真で、日本の位置はここです。筋状の雲が一杯に広がっています。NHKの場合は、気象衛星からダイレクトにこの写真を取りまして、画面に流すわけです。こちらの写真が台風です。

当初日本は、南極と北極を縦に回る極軌道衛星を希望したようです。これは大まかな雲しか発見できないのですが、連続の雲の移動がわかるという利点があります。極軌道衛星は現在二つ。一つはアメリカ、一つはロシアが分担しております。その一つであるランドサットは、地上の新聞の大見出しぐらゐまで読解可能といわれますので、気象観測のほかに、軍事目的で使用されている模様です。終戦間際、日本の上空にはかなり強い西風、ジェット気流が吹いているということが発見されました。この発見のきっかけになったのは、アメリカ空軍の予想襲来時間と実時間とのズレだったということです。戦争によって、あるいは軍事目的で発達・発見した事象であつても、現在平和目的で大いに活用されているのは結構なことだと思います。

もともと天気予報の発達と軍事科学は、切っても切れない密接な関係がありました。現在気象観測にはレーダーが使用されておりますが、このレーダーも襲来する敵機の発見のために開発、進歩したものです。レーダーで敵の飛行機を発見する際、邪魔になるのが雨でした。しかし、邪魔な雨をつぶさに読み取つてしまうことが、平和利用としての気象観測に大いに役立つことなるわけです。

天気予報の成績は 東大合格にあと一歩？

さて、それでは天気予報は、現在点数をつければ何点ぐらゐか。百点満点にして八五点といったところでしょう。それが高いか低いかは、